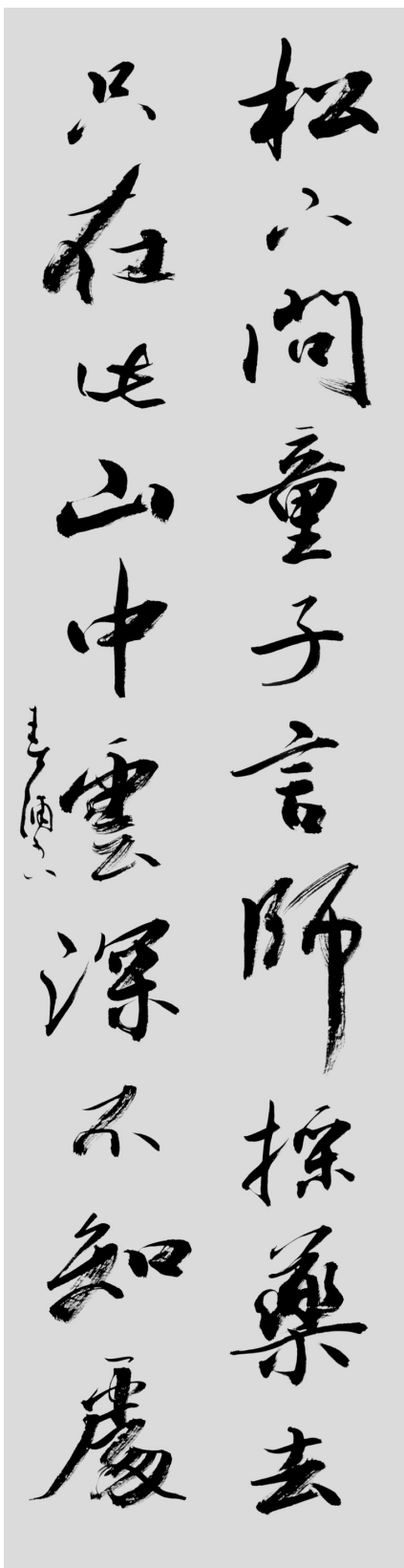


9月25日正午必着

明石春浦先生書

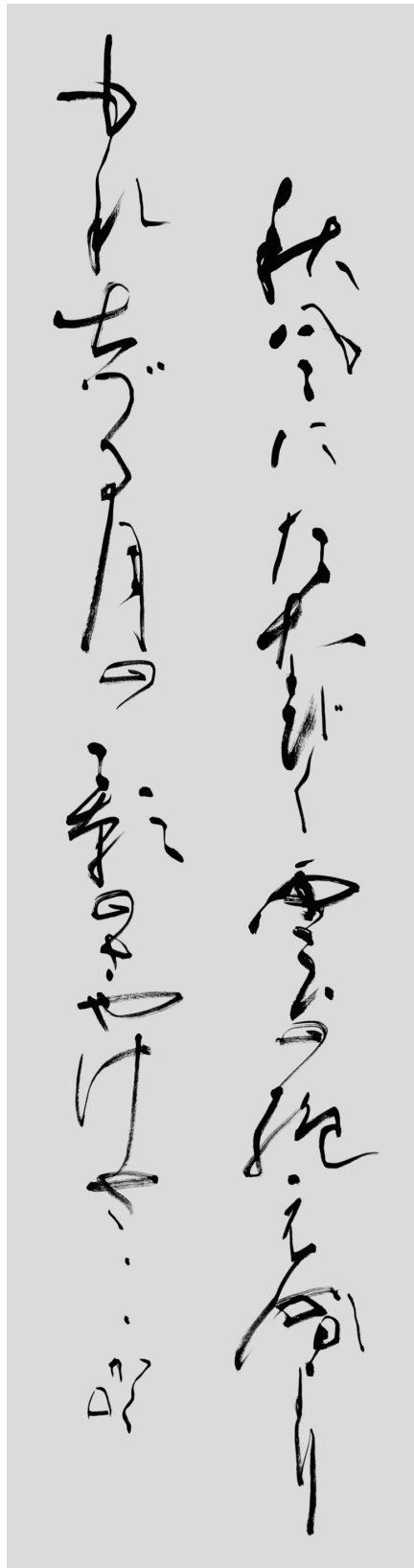


松下問童子 言師採藥去 只在此山中 雲深不知處 (賈島)

雨宮春聲先生書



酒有別腸 (五代史) 酒は他の食物とはちがった入るところがある。



明石幸子書

秋風にたなびく雲の絶え間よりもれ出づる月の影のさやけさ (藤原顯輔)

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

万里無雲孤月圓 (虚堂録)

万里雲無く孤月圓なり

見渡す限り雲一つなく、円い月が照っている。

千卷蠹書忘歳月
一尊濁酒信乾坤 (陸游)

千卷の蠹書歳月を忘れ、
一尊の濁酒乾坤に信ず。

蠹書は虫のくった古書。尊は樽。古書を読み耽って
歳月を忘れ、濁酒に酔うてわが身を天地にまかせる。

仲夏江陰官舍寄裴明府 (李嘉祐)

仲夏 江陰の官舎にして、裴明府に寄す
李嘉祐

萬室邊江次 孤城對海安

萬室 江に辺して次し 孤城 海に對して安し

朝霞晴作雨 濕氣晚生寒

朝霞 晴れて雨と作り 濕氣 晩に寒を生ず

苔色侵衣桁 潮痕上井欄

苔色 衣桁を侵し 潮痕 井欄に上る

題詩招茂宰 思爾欲辭官

詩を題して茂宰を招く 思 爾が官を辭せんと欲するを

しとどなる今朝の白露 風立ちにさ霧となれり 見ゆるかぎりは

(吉植 庄亮)

半紙部規定課題A

9月25日正午必着



※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

9月25日正午必着

行書

芳草露
中表

隸書

芳草露
中表

明石春浦先生書

草書

芳草露
中表

行草書

芳草露
中表

山中に夜は明け初め、旅人は去って行く、空は高く、ものがなしい秋のけはい
地上の川に映じていた天の川はすでに消え去って、かぐわしい草はつめたい露の中に衰えてゆく
いまここに別れて、またも千里のかなたに赴くのだが、若さというものはいつまでも保てるものではない
君の住む剡溪への道がはつきり心に浮ぶ、いささか将来の約束をお届けしましょう

早行寄朱放

戴叔倫

山曉旅人去

天高秋氣悲

明河川上沒

芳草露中衰

此別又千里

少年能幾時

心知剡溪路

聊且寄前期

早行 朱放に寄す

戴叔倫

山曉けて 旅人去り

天高くして 秋氣悲し

明河 川上に没し

芳草 露中に衰う

此の別れ 又た千里

少年 能く幾時ぞ

心を知る 剡溪の路

聊且 前期を寄す

(出典)

朝日新聞社刊

「三体詩」下より

9月25日正午必着



抱玉三朝 (楚)

三浦士岳先生臨書



抱玉三朝楚 懷書十上秦
 年々洛陽陌 華鳥弄婦人
 久別侵懷抱 他鄉變頌色
 月夜調鳴琴 相(思此何極)

抱玉 三たび楚に朝し
 懷書 十たび秦に上る
 年々 洛陽の陌
 華鳥 婦人を弄す
 久別 懷抱を侵し
 他郷 頌色を變す
 月夜 鳴琴を調すれば
 相(思) 此に何ぞ極まらん

清 吳熙載・篆書唐詩

清朝の乾隆・嘉慶年間(一八世紀末あたり)から同治・光緒の初め頃までの約百年の間は、鄧石如をはじめとし包世臣、吳熙載、趙之謙などの書字の道を伝える名家が輩出した時代で、これらの名家は後の書道史に極めて大きな影響を与えたと言われている。

吳熙載は嘉慶四年(一七九九)江蘇省儀徵に生まれ、官位にこだわらず、書画篆刻の三絶に生涯をささげ、同治九年(一八七〇)に七十二歳で没したといわれる。はじめ名を廷鷹、字を熙載といい、後に名を熙載、字を讓之とした。別に讓翁、晚学居士、言庵などと号した。

彼は楷・行・草を包世臣に学び、その理論と技法を信奉し、二十歳の若さですでに、師からその資質を高く評価されていたようである。

また、篆隸・篆刻は、三十歳頃に鄧石如の作品と出会い心酔していったと伝えられている。

彼の書画篆刻はいずれも格調高く高い評価を得ている。なかでも篆隸書を最も得意とした。字形は縦長で、結体は緊密、線はやや細めで張りがあり、逆筆・中鋒で運筆し、終筆は軽くおさえてそのまま筆を上げる。縦画の終筆はやや筆先をとがらせ、線の中心で抜く技法を用いている。流麗な運筆で長脚を駆使した、洗練された都会的な風韻を味わい、学びたい。

(春濤)

9月25日正午必着



望雲 (旧唐書) 狄仁傑伝

旅先で子が親を思う心。

△做書参考作品▽

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。



抱玉三朝楚 懷書十上秦 年々洛陽陌 華鳥(弄婦人)



けい
経

ざい
济

中学一年

雨宮春聲先生書



かま
鎌

くら
倉

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



かく
格

げん
言

小学五年

榎戸春龍先生書



か
家

ぞく
族

小学六年

藤井良泰先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

9月25日正午必着



しゅ りょく
主 力 小学三年

藤田幸春先生書



や ま と
大 和 小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

か ぜ 小学一年・幼年



森戸春濤書

はや い 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

集まっていたいました
 けい示板の前になが

小学五年

一番必要なものです
 生き物にとつて水は

小学六年

深い感動をあたえる
 小説は世界のく々に

中学

でーこの香がたゞよう
 秋色を帯びた小徑にな

一般(級位)

赤き日に彼ら無心に遊べども寂しかりけり童があたま
 空しかりけり童があたま

赤き日に彼ら無心に遊べども寂しかりけり童があたま(北原白秋)

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
 また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

る	よ
	ぞ
ぎ	ら
ん	に
の	
ほ	ひ
し	か

幼年

か	く
	さ
な	む
い	ら
て	て
い	
る	虫

小学一年

ゆ	す
れ	ず
る	し
コ	い
ス	秋
モ	風
ス	に

小学二年

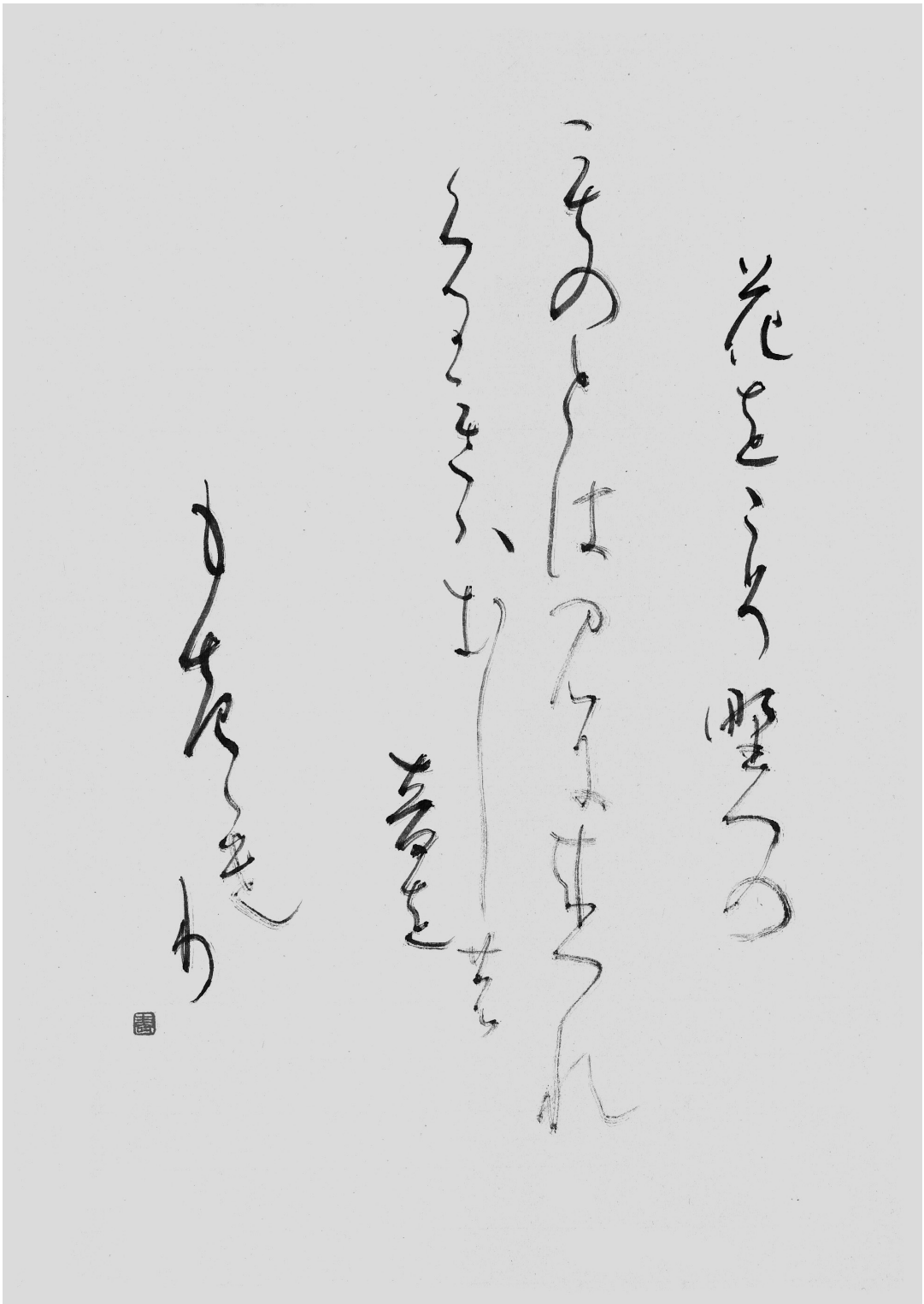
う	空
き	に
雲	一
が	本
み	の
え	ひ
る	こ

小学三年

は	お
か	ひ
ま	岸
い	に
り	は
に	家
行	族
く	で

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



岩本景楓先生書

花をこそ野べのものはみに来つれくるればむしの音をもきけり
曾毛 見尔 連八 農
 (西行法師)